

令和 6 年度学校評価結果報告書

桶川市立桶川西中学校
校長 小野 大雄

- 1 目指す学校像 「きれいな環境の中で豊かな心と豊かな学びがある学校」
- 2 評価結果

領域	No.	評価項目	自己評価		学校関係者評価 または 学校運営協議会における評価
			評価	説明及び学校の考え	
組織・運営	(1) 1	学校は、学校教育目標の達成に向けて、校務分掌等が機能し、組織的に取り組んでいる。	A 90%	校長のリーダーシップのもと、全職員が同じ方向を向いて教育活動を推進している。校務分掌は適切に機能している。働き方改革の観点から業務の見直しが課題である。	校長を中心に、目指す学校像に向かって、全教職員が適切に機能している。学年に所属する職員が、チームの一員としてそれぞれの役割を果たし、自己肯定感を高めている。そして、協力的で明るい雰囲気がある。教員間のよい雰囲気が生徒の前向きな取組に影響を与えると考える。
	(1) 3	学年は、学年目標に基づき、協働体制がとれている。	A 92%	生徒の情報は、常に学年で共有する体制ができており、生徒指導も学年として対応している。引く続き協働体制を強化し、迅速な対応、情報共有を図っていく。	
学習指導	(2) 4	生徒の学ぶ意欲を喚起するよう、わかる授業を行うようにしている。	A 90%	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業改善がなされている。課題を明確にし、生徒が主体となって学び合いながら課題を解決するような授業展開をさらに推進していく。	学習指導に関して、ICT を効果的に活用している。グループ活動等、教材研究がしっかりできていて協働的な学びを意識した授業が行われている。教職員の授業力の向上が図られており、生徒の学習意欲も向上している。このことが、学力調査の結果の数値に表れている。
	(2) 5	学習形態や指導法の工夫・改善を行い、学力向上に努めている。(ICT の活用を含む)	A 88%	主体的な学びを推進するためのツールとして、ICT を活用した授業を展開することができた。効果的な ICT の活用について実践を共有し学力向上につなげていく。	
生徒指導・教育相談	(3) 8	生徒の観察等を通じて不登校や問題行動、いじめ防止・早期発見に努めている。	A 94%	生徒指導委員会・教育相談部会を毎週実施することで、いじめの早期発見や迅速な対応を行ってきた。組織的対応や保護者との連携をさらに強化し、確実な生徒指導体制を確立していく。	いじめ防止の取組として、生徒会が主体となって行う「ピンクシャツデー」や、無言清掃は、効果的な取組として継続してほしい。いじめ事案の対応については、改めて指導・連絡体制を見直すことで、生徒・保護者との信頼関係を大切にしていってほしい。「いじめの撲滅」や「いじめの解消」を目指し、「いじめ防止基本方針」や「生徒指導提要」に示されていることを全職員に周知したり、生徒の変化に気付く目を育成する研修を実施したりするなど、共通理解共通行動で取り組むべきである。
	(3) 9	地域や家庭との連携・協力を努め生徒の健全育成を推進している。	A 88%	下校時や放課後等の問題行動について、地域からの声に対応した。民生委員との懇談会を実施し、生徒や家庭環境についての情報交換を行うなど、地域とも連携して健全育成を推進した。	

健康 教育	(4) 10	部活動を積極的に推進し、継続的に運動する態度と能力を育成している。	A 88%	部活動をととして、生徒が継続的に運動する態度と能力を育成すると同時に人間力も育んでいる。今後は、部活動地域移行を見通しつつ、限られた状況の中で充実させていくことが大切である。	部活動の外部委託、地域移行完了に向けて、市教委の動きも見ながら、部活動の取組を充実させてほしい。
	(3) 12	食に関する指導を推進し、給食指導を充実させている。	A 92%	毎月の給食だよりの発行や食育に関する掲示、家庭科の授業等を充実させることにより、食に関する生徒の意識を高めることができた。食物アレルギー対応についても、確実に行うことができた。	
学習 環境	(5) 13	きれいな学校を目指し清掃活動、ボランティア活動の向上に取り組んでいる。	A 88%	短時間で集中して行う無言清掃が定着し、生徒が主体的にきれいな学校づくりに取り組めるようになった。環境委員や運動部等による自主的な落ち葉清掃の活動も充実してきている。	学校周りの除草については、今年度は50周年の全体除草があり、学校、地域、保護者で協力して取り組めたのは、よかった。今後継続していく方法について検討していくことが大切である。
	(5) 14	花の栽培や植物の栽培等を通してよりよい環境づくりを行っている。	A 90%	学校応援団や生徒・保護者・地域の方の協力を得て50周年に向けての除草活動を行うことができた。多くの方の協力があって教育活動が進められることについて感謝の思いを持つことができた。	
教職 員の 資 質 向 上	(6) 15	校内研修の課題が設定され、計画的に実施されている。	A 81%	「個別最適な学び」と「協働的な学び」のある学習指導について、研究の1年目ということで試行錯誤をしながら進めた。今後の進め方について今年得たものを生かしていく必要がある。	教職員事故防止については、チェックリストを効果的に活用するなど、自分事として捉える研修の継続が重要である。
	(6) 16	学校は職員に服務規律の確保に努めている。	A 94%	毎月の倫理確立研修会や校長室だより・職員室だよりによる教職員事故に関する情報共有を通して、当事者意識を高めることができた。引き続き、教職員事故防止について、適切な時期に指示・指導を実施していく。	
家庭・ 地域 との 連 携	(7) 17	各種便りを発行し理解や信頼が得られるようにしている。	A 95%	学校だよりや学年通信の毎月の発行や、学校情報メールの活用などを通じて、学校の教育活動について、家庭・地域の理解を得られるようにした。	地域との連携をどう図るか、防犯等、安心安全について地域との連携をどうするか、課題である。地域でも子どもを中心に据えたイベント等が集まってくる。それをどう生かしていくか、学校と地域とで一緒に考え、工夫していくことが大切である。
	(6) 19	積極的に学校公開、HP更新を行い理解と信頼を得るようにしている。	A 93%	授業参観、保護者会、学校行事やその説明会等をととして理解を得られるようにした。さらに日常の様子を学校HPで伝えることで、学校理解につなげ信頼関係を構築した。	

*自己評価については、12月に全教職員で行いました。

*評価については、A…8割以上（4段階評価平均3.2以上）、B…6割以上（4段階平均2.4以上）で評価をしました。それ以下はCとなります。